

フレッシュな仲間を迎え、平成22年度がスタートしました

東通原子力発電所は、4月に14名の新しい仲間が加わりました。今回のPSつうしんでは、発電所の一員、そして東通村の一員となった新入社員を紹介いたします。

東北電力では、平成22年度の新入社員として、390名を採用しました。そのうち14名(うち青森県出身者は7名)が東通原子力発電所に配属となりました。

4月1日(木)本店(仙台市)において入社式を終えた一同は、同日の午後、東通原子力発電所に到着し受入式に臨みました。受入式では、所長・副所長・各職場の課長と初めて対面し、緊張した中にも真剣な面持ちで所長の歓迎の言葉に聞き入っていました。

翌日からは、放射線業務従事者教育や発電所での業務に必要な保安教育などを受講し、電力社員としての第一歩を踏み出しました。新入社員はその他にも、総合研修センター(福島県原町市)で行う新入社員導入教育や各職場での教育など、さまざまな教育・訓練を受け、たくさんの知識や技能を身につけて発電所の第一線で活躍できるよう頑張っています。

東通村の皆さまの温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



津幡所長の歓迎の言葉に聞き入る新入社員



基礎知識をしっかり身につけ、発電所の第一線で活躍できるよう頑張ります。また、東通村の海・山の幸や美しい自然を満喫したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

発電所トピックス1 『電気記念日』にちなんで東通小・中学校へ図書を寄贈しました

東通原子力発電所では、3月30日(火)、『電気記念日』にちなんで、東通村立東通小学校および東通中学校に対し、環境やエネルギーなどに関する教育関係図書を寄贈しました。この寄贈は、読書を通じて子供たちが健やかに成長することを願い、平成10年から毎年行っております。

同日、東通村役場において、越善村長に津幡所長から目録を手渡しました。これに対して越善村長から『毎年、図書を寄贈していただき感謝しています。学校で役立てます』とお言葉をいただきました。



越善村長(写真:右)に目録を手渡す津幡所長

発電所トピックス2 初期消火研修会を実施しました

東通原子力発電所では、3月24日(水)・25日(木)、東通消防署において消火責任者および初期消火担当者を対象として、初期消火研修会を行いました。この研修会は、初期消火活動に対する知識・技能のスキルアップを目的として、毎年行っているものです。



東通消防署員より指導を受ける発電所員



煙が充満した部屋を想定した施設を体験

初めに東通消防署員より講話をいただき、消火に関する基礎知識を学んだ後、消火器を使用しての消火訓練や防火服・酸素ボンベの装着訓練などを行いました。

当発電所では、これからも継続的に訓練を行い、消火活動の更なるレベルの向上と、いざという時に迅速かつ的確な対応ができるように取り組んでまいります。